

リレートーク

紹介者



日高信彦氏
ガートナー
ジャパン
取締役社長



杉江 和男氏
D I C
取締役社長執行役員

#158

「化学の役割」

化学は永遠の成長産業であると思うが、製品のライフサイクルは比較的短い。医薬、農業やプラスチックなど一部を除き、多くの化学品は車や住宅・家電のような目的産業ではないため、その性能が満たされなければいつでも天然物や他の素材に代替される。さらには市場から消滅する場合もある。

黒色火薬で起業し 200 年の歴史を持つデュポンは約 100 年前に業容を拡大。染料、農業、塗料、合成ゴム、ナイロン、テフロン、エレクトロニクス、バイオなど相次いで新たな化学品の市場を創り出してきた。1902 年に金剛石の発掘でスタートした 3 M は、自動車塗料用サンドペーパーの研磨と接着をコア技術として、スコッチ製品、ポストイット、液晶プリズムシートなど広範な産業界および家庭に数々の新商品を提供してきた。

D I C（旧社名：大日本インキ化学工業）は創業以来 103 年、世界 63 カ国で事業を行うグローバル企業となったが、15 世紀には誕生していた印刷インキという化学品では稀な息の長い製品に恵まれたためか、デジタル時代を迎えて市場の変化をとらえきれていない。印刷インキの役割は、情報伝達と色彩表現であると考えなくてはならない。化学企業は、通常 10 年から 30 年の寿命と思える「製品」のみに固執すると、必ず衰退していく運命をたどることになるため、「機能」を提供し続けることが成長の条件であると思っている。

地球温暖化防止、代替エネルギー、食料と水資源確保、安心・安全で快適な生活環境づくりなど、化学が果たすべき役割は無限に存在する。新しい化学品市場を創り上げてきたデュポン、新しい商品を開発してきた 3 M のように、日本においても世界トップの独自技術と製品で自動車や情報機器になくはない会社が数多く存在する。化学企業とセットメーカーがより密接な関係をつくり、問題解決策とサプライチェーンのシステム化を図るとともに、国際的観点からの国の支援が経済成長のために有効な方策であると信じている。

次回は 小山 眞一氏（富士ゼロックスシステムサービス 取締役会長兼社長）にご登場いただきます。